

令和7年  
2025年

8月27日  
水曜日

第11782号

# 食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日  
第三種郵便物認可

購読料(前納)  
年間 82,080円  
(税込み)  
6か月 42,120円  
(税込み)

本紙は関連企業・団体との  
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社  
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社  
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10  
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社  
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48  
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局  
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12  
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



CONTENTS

- ▶ [下期の鶏価予想] 消費堅調、相場は高値で推移…………… P2～3
- ▶ JACAが勉強会実施、次世代フードとして注目される細胞性食品について…………… P3
- ▶ 8月の米フィードロット飼養頭数は前年比2%減の1092万2千頭…………… P4
- ▶ 伊藤ハムが「おかずプラス」シリーズに新商品2品発売…………… P4
- ▶ ロッテリア「半熟月見バーガーフェア」開催…………… P4
- ▶ [外食産業市場動向・7月] 焼き肉は前年同月比2・4%増…………… P5

- ▶ ブラジル、2024/25年度主要穀物の生産状況等の調査結果を公表…………… P6
- ▶ 【輸入副生物現物相場】盆明けで需要の端境期に。末端需要鈍く相場も弱含み…………… P7
- ▶ JAタウン「モーっとおおいた和牛・豊後牛を食べよう!キャンペーン」…………… P7
- ▶ [資料] 都道府県別枝肉生産量(令和7年6月)…………… P8～9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数] 26日…………… P10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 26日…………… P11

## 注目のヘッドライン

【下期の鶏価予想】消費堅調、相場は高値で推移

…詳細はP2～3

JACAが勉強会実施、次世代フードとして注目される細胞性食品について

…詳細はP3

食の感動体験を創造することで  
世界中の人々と食をつなぎ続ける



<https://www.starzen.co.jp/>



<https://www.sfoods.co.jp/>

## 【下期の鶏価予想】消費堅調、相場は高値で推移

鶏肉の消費は他の畜種よりも安いという価格優位性から、おおむね順調だった。特に国産生鮮物は、モモ、ムネとも相場は例年になく高い。輸入物も比較的需要の弱い夏場に入ってやや動きが鈍っているものの、秋以降はスナック需要などを含め、活発化が予想される。また、日本食鳥協会などは国産モモ肉の栄養・機能性をうたったプロモーションの強化を図っている。

2025年は年明けから盛夏まで、国産鶏肉の消費はおおむね堅調に推移している。特に諸物価の高騰が続く中、「他の畜種や水産物と比較すれば、まだまだ安価なタンパク源」という価格優位性もあり、消費者の支持を集めている格好だ。

一般社全国スーパーマーケット協会などスーパー3団体が月次で公表している「スーパーマーケット景気動向調査」でも、畜産カテゴリーの動向については、鶏肉の売り上げの好調さや他の畜種から鶏肉へのシフトが毎月のように挙げられた。

また、量販店では改装時や、シーズンごとの「棚替え」のタイミングで、鶏肉の売り場面積や陳列フェース数を増やす方策をとる企業も多くみられ、鶏肉消費伸長の一因にもなっている。

また、コロナ禍による内食回帰や21年後半以降の消費者物価の上昇、ウクライナ侵攻や円安を背景とした物価高騰などによる節約志向だけでなく、健康志向も鶏肉消費が増加する追い風の一つとなっている。高タンパクであり、低脂肪のホワイトミートとして、ムネ肉、ササミの人気も定着した。

農水省の「食肉鶏卵速報」(25年7月)をみても、掲載中最新の数字である23年(概算)の1人当たり年間の鶏肉消費量は14・4kgと上昇傾向にある。10年前の13年の12・0kgから2・4kg増加している。牛肉は23年に6・1kgと13年比でほぼ横ばい、豚肉が13・1kgと13年比1・3kg増であることから、鶏肉消費の伸長ぶりがうかがえる。

国産鶏肉の生産量をみると、今年に入って前年を下回る月が多かったのは、冬の寒さが厳しく、入すう時のタイミングで寒冷だったことによる増体不良が主な原因とみられる。

24年秋～25年春の高病原性鳥インフルエンザ

シーズンには14道県51事例が発生し、約932万羽の殺処分が行われた。

採卵鶏農場での発生が多かった一方、肉用鶏での発生事例は比較的少なく、鶏肉生産量全体で見ると、鳥フルは大きな減産要因にはなっていない。

【国産鶏肉】国産生鮮鶏肉の相場は、生産コスト高も反映し、今年1月以降、モモ、ムネとも前年を上回って推移した。日経新聞が4月1日付から日経加重平均の東京相場について、調査対象をそれまでの7社から1社を外し、新たに2社を加えることで計8社としたことも影響し、4月にモモで800円前後、ムネで440円前後と、3月の平均を2割近く上回って推移した。

7月下旬にもモモで830円前後、ムネ540円前後の高値が続いている。例年、モモについては気温の高まりとともに、脂肪の濃厚な味わいが敬遠されること、煮物、揚げ物など長時間火を使う調理機会が減少することから、ゴールデンウィーク後から夏場にかけてジリ安となり、盛夏の時期に相場は底を打つ。

旧盆中は、工場の稼働が少なく物量がタイトになること、同じ時期に帰省、夏の休暇などで調理の機会が増えることで、値を上げる。

今年も生鮮モモの動きは例年と同様、春から夏にかけて気温の高まりとともに鈍化がみられるものの、相場については下げ幅は非常に緩やかで高値が続いている。旧盆明け、8月下旬は780円前後の高値となった。

生鮮ムネはさっぱりとした味わいが特長であり、かつては「ポン酢和え」などの食べ方で夏の涼味商材の側面が強かったが、年間を通して人気の高い商品に変わってきた。ホワイトミートとしての健康・ダイエット志向、また肉類の中でもとりわけ安価であること、「鶏ハム」などの特有のやさしさを抑えたおいしい食べ方が普及したことも背景にあらう。

また、抗酸化作用や疲労回復効果があるとされるイミダゾールジペプチドが豊富に含まれていることが、日本食鳥協会などの発信により広く知られるようになり、現在の安定した相場高にも結び付いている。

食鳥協では、国産モモ肉についても、脂肪からのエネルギー産生に關与する物質で「脂肪の燃焼」「運動能力向上」「血中脂肪の改善」などが期待される

脂肪酸アシルカルニチン、血管などの内皮機能の改善に寄与している物質で、一酸化窒素が有する脳内血流増加、動脈硬化阻止、血栓・塞栓防止機能に関与しているホモールアルギニンなどが豊富に含まれている点などの機能性の発信を強めており、需要増に結び付けていく方針だ。

また、10月8日を「鶏すき焼きの日」、毎月8日を牛肉、豚肉も含めた「すき焼きの日」としてプロモーションを強化していく。

**【輸入鶏肉】**25年は世界的なコスト高に加え、ブラジル、タイとも自国内での需要が堅調なことから現地価格の高騰もあり、特にブラジルからの輸入量が前年を大きく下回った。1、2月はブラジル産モモ正肉でキロ当たり420円前後と比較的高く、国産冷凍物との価格差も小さかったため、量販店などでの輸入解凍品の低価格訴求はしづらかった。

南半球での鳥フルのシーズンに入った今年5月以降、ブラジルでは散発的に発生が続いたものの、日

本の輸入停止措置は発生した市を単位としているため、輸入量を押し下げる要因とはならなかった。

EU、中国、韓国、中東の一部の国などで、ブラジル全土からの輸入を一時停止した影響もあり、日本国内のブラジル産モモ正肉相場は世界的な荷余り感から軟調で推移し、410円前後まで値を下げた。その後、韓国などで輸入条件を緩和する動きなどもあり、6月に入って現地オファーは強気に転じている。

夏場は年間を通じての需要が薄い時期だが、インバウンドも含めた人の動きはかつてないほど活発化している。8月に入ってブラジル産はモモ正肉が430円前後、カット物が460円前後まで値を上げた。

**【調製品】**鶏肉調製品はタイ、中国の2カ国で総輸入量の9割方を占める。

コロナ禍が終息して以降、外食需要、サンドイッチなどでの中食需要共に堅調で、25年もほぼ前年並みの数量で推移している。

## JACA が勉強会実施、次世代フードとして注目される細胞性食品について

一般社細胞農業研究機構(JACA)は26日、報道関係者を対象に、細胞性食品に関する現状や課題を説明する勉強会をオンラインで開催した。講師を務めたのはJACAの吉富愛望アビガイル代表。同機構は国内経済を支える新規産業を発掘・育成し、変化する潮流に備えるため、国内外のステークホルダーとの対話によってルール形成を促進し、国際社会における日本の存在感向上に貢献している。勉強会の要旨は次のとおり。

現在、細胞性商品に関する大学などでの研究開発は、大規模な助成金と体系的な人材育成プログラムが整備されている米国やオランダが主導。とりわけ米国ではバイデン政権下での細胞性食品の“承認”を経て、制度整備が進み、世界最多の36社が技術開発に取り組んでいる。これに次ぐのがイスラエルで、その他にもシンガポールが細胞性チキンナゲットの販売許可を取得。バイオ産業が盛んな韓国でも、スマート畜産と連携した品質管理、大量生産や商用化に向けた開発・実証など、安全・安心も意識した体制構

築を進めている。持続可能性やタンパク質クライシスへの対応が必要なことや、政策的支援が加速していることから、細胞性食品が世界中で以前よりも注目されているのは間違いない。

そういった状況下、食品の分析・製造・加工技術の高さ、日本食に対する世界的な信頼度の高さなどから、日本でも技術やソフトパワー、学問の強みが生かされるとして、関心が高まっている。特に飼料に関しては輸入依存がみられ、円安や世界的な穀物市況の変動による悪影響も懸念される中で、食肉をはじめとする食料供給の点でも注目度は上昇中だ。

米国やシンガポールが安定生産を目指しているのに対して、日本がまだ技術開発のステップにあるのは確かだ。しかし、気候変動や人口増加といった背景もある中で、大阪・関西万博でも培養肉が展示されている他、昨年からは消費者庁の新開発食品調査部会でも本格的な議論が行われている。現在は同部会でガイドライン案が詳細に検討されており、国内販売を見据えた体制作りが進められることになる。

## 8月の米フィードロット飼養頭数は前年比2%減の1092万2千頭

米国農務省(USDA)が公表した8月1日現在の牛フィードロット飼養頭数(1千頭以上収容)は1092万2千頭と前月より20万2千頭減少し、前年同月からも2%減少した。カルフォルニア、テキサス、コロラド、アリゾナ、オクラホマで前年割れが続いている。州別の飼養頭数は表のとおり。

導入頭数をみると、7月は前月より15万7千頭増加して159万8千頭となったが、前年同月からは6%減少した。導入頭数を体重別にみると600ポンド未満が34万頭、600~699ポンドが24万5千頭、700~799ポンドが36万5千頭、800~899ポンドが37万8千頭、900~999ポンドが19万5千頭、1千ポンド以上は7万5千頭となった。

また、7月の出荷頭数は174万9千頭と前月より4万2千頭増加したが、前年同月から6%減少した。

単位: 頭数は千頭、割合はパーセント

州	2024/8/1	2025/7/1	2025/8/1	前年比(%)	前月比(%)
アリゾナ	240	229	222	93	97
カリフォルニア	520	485	475	91	98
コロラド	960	900	880	92	98
アイダホ	310	330	325	105	98
アイオワ	650	690	690	106	100
カンザス	2,210	2,270	2,270	103	100
ミネソタ	100	-	-	-	-
ネブラスカ	2,320	2,440	2,390	103	98
オクラホマ	325	320	310	95	97
サウスダコタ	190	205	190	100	93
テキサス	2,740	2,570	2,490	91	97
ワシントン	240	255	255	106	100
その他	290	430	425	147	99
米国	11,095	11,124	10,922	98	98

## 伊藤ハムが「おかずプラス」シリーズに新商品2品発売

伊藤ハムは9月1日、食卓に1品プラスしたい時に最適な「おかずプラス」シリーズから、ダシのうまみにこだわった「牛すじおでん」「若鶏と里芋の土佐煮」を発売する。

「牛すじおでん」は4種の具材(牛スジ・大根・糸こんにゃく・ちくわ)にダシのうまみを染み込ませた。1人前として丁度良いサイズ感で、秋冬に最適なメニュー。「若鶏と里芋の土佐煮」はかつお節・あご・昆布のおいしさを、若鶏と里芋に染みわたるように煮込んだ。食べた瞬間に、かつお節のうまみが口の中に広がるのが特長。いずれも賞味期間が冷蔵60日間の

ため、冷蔵庫にストックしておけば、忙しくて買い物に行けないときや、料理ができない日にとっても便利。手軽におかずやつまみとして食卓に1品プラスできる。



## ロッテリア「半熟月見バーガーフェア」開催

ロッテリアは9月3日から、「半熟月見バーガーフェア」として「和風半熟月見 絶品チーズバーガー」(税込み590円)を含む新商品4品を販売する。

同商品は、牛肉100%のパーティに、月をイメージした半熟風玉子、3種類のしょうゆの特製香味ソース、ゆずマヨを組み合わせ、レッドチェダーチーズ、4種のチーズをブレンドしたチーズソースなどと共に、ふ

んわりもっちり食感のバンズで挟んだ商品。3種類のしょうゆをベースに、しょうがやにんにくなどの香味野菜を使用し、風味豊かでキラのある味わいに仕上げた特製香味ソースと、ゆず皮の爽やかな風味が特長のゆずマヨで、さっぱりとした和風の味わいに仕上げた一品となっている。

## 【外食産業市場動向・7月】 焼き肉は前年同月比2・4%増

一般社団法人日本フードサービス協会が公表した外食産業市場動向調査によると、7月は、6月に続き「記録的な暑さ」となり、冷たいメニューやビール類などが好評となったほか、好天の中、月後半は夏休みの行楽需要なども好調で、外食全体の売り上げは、8・7%増となった。猛暑の影響は各社まちまちで、シニア層などの客足はマイナスとなる一方で、「涼を求める」外食動機も増え、夏休みの行楽需要もあり、大型商業施設立地の店舗では、安定した集客につながることもあった。

ファストフード業態の全体の売り上げは9・7%増となった。

「洋風」は、スパイシーな季節メニューや期間限定メニュー、コラボ商品が好調だったほか、冷たいドリンクの値引き販促などが好調で、売り上げ11・8%増。「和風」は、引き続き客数が弱かったものの、猛暑日の割引クーポンや新規投入した麺類メニューの人気が続いたほか、うなぎなどの季節メニューにも一定の集客があり、売り上げ10・0%増。「麺類」は、冷たいメニューの投入が本格化し、猛暑で好調、売り上げ8・7%増。「持ち帰り米飯／回転ずし」は、客数は引き続き弱いものの、夏休みに入り集客が改善したところもあり、売り上げ3・0%増。「その他」は、「アイ

スクリーム」が猛暑の中で人気キャラクターとのコラボ商品が好調、売り上げは9・5%増となった。

ファミリーレストラン業態は全体売り上げ7・6%増となった。ファミリーレストランは、猛暑の影響は各社まちまちとなったが、かき氷などの季節メニューに各社力を入れたほか、地域別の販促を展開して集客したところもあり、「洋風」は売り上げ8・1%増。「和風」は、土用の丑の日のうなぎフェアなどで一定の集客があり、売り上げ9・4%増。「中華」は、各種キャンペーンの好調や店舗数増で、売り上げ7・9%増となった。客数の伸び悩みが続いている「焼き肉」は、猛暑が客足にマイナスとなるところもあったが、単価の上昇により売り上げは2・4%増となった。

パブ・居酒屋業態など飲酒業態は、猛暑で各社ビール類の販売が好調、客数も前月より改善傾向にあり、売り上げは3・7%増となった。

ディナーレストラン業態は、インバウンド需要の勢いは落ち着いたが、引き続きお得感のある平日ランチメニューが好評、売り上げは5・3%増となった。

喫茶業態は引き続き客単価の上昇が売り上げを押し上げているが、夏のドリンク類投入のほか各社販促キャンペーンを打ち出し、売り上げ11・6%増となった。

外食産業市場動向(全店)

単位:社、店、%(前年同月比)

業態	事業者数	店舗数	売上高	店舗数	客数	客単価
全体	234	36,700	108.7%	100.8%	104.4%	104.0%
ファストフード合計	54	21,213	109.7%	101.4%	105.0%	104.5%
洋風	18	6,147	111.8%	101.8%	110.7%	101.1%
和風	16	5,298	110.0%	102.3%	100.7%	109.3%
麺類	19	3,161	108.7%	100.8%	105.8%	102.8%
持ち帰り米飯・回転ずし	18	4,084	103.0%	99.8%	94.8%	108.6%
その他	11	2,523	109.5%	102.1%	104.3%	105.0%
ファミリーレストラン合計	67	9,505	107.6%	99.6%	104.2%	103.2%
洋風	35	4,520	108.1%	97.6%	105.3%	102.6%
和風	33	2,383	109.4%	101.1%	102.7%	106.5%
中華	12	1,221	107.9%	102.6%	103.9%	103.8%
焼き肉	17	1,381	102.4%	100.8%	98.1%	104.4%
パブ・レストラン／居酒屋合計	40	2,251	103.7%	100.1%	100.8%	102.9%
パブ・ビアホール	14	406	103.5%	102.5%	100.8%	102.7%
居酒屋	32	1,845	103.8%	99.6%	100.9%	102.9%
ディナーレストラン(計)	27	973	105.3%	103.3%	107.0%	98.4%
喫茶(計)	24	2,486	111.6%	101.2%	101.1%	110.4%
その他(計)	22	272	98.7%	90.4%	97.5%	101.2%

## ブラジル、2024/25年度主要穀物の生産状況等の調査結果を公表

ブラジル国家食糧供給公社(CONAB)はこのほど、2024/25年度11回目となる主要穀物の生産状況等調査結果を公表した。この調査は、春植えの夏期作物(大豆、第1期作とうもろこしなど)や秋植えの冬期作物(第2期作・第3期作とうもろこし、小麦、大麦、ライ麦など)の生産予測を毎月公表するものである。

24/25年度のとうもろこし生産量は、前回(2025年7月)より503万1400t上方修正の1億3700万5100t(前年度比18.6%増)と、前年度を大幅に上回り、CONABが統計を取り始めて以来最大と見込まれている(表)。これは、作付面積(3.0%増)と単収(15.2%増)がいずれも前年度を上回るとの見通しによるものである。

内訳をみると、全生産量の2割を占める第1期作の生産量は、前回より1万6200t上方修正の2493万5800t(8.6%増)と、前年度をかなりの程度上回ると見込まれている。第1期作の収穫は、8月中旬時点でマラニョン州の一部地域でわずかに残っているものの、実質的にはすべて終了した。なお、同州とパラ州はばん種および収穫の時期が他の州と比較して遅いという特長がある。

また、全生産量の8割を占める第2期作の生産量は、前回より502万9千t上方修正の1億956万7200t(21.7%増)と、前年度を大幅に上回ると見込まれ

ている。第2期作は、8月中旬時点で作付面積全体の83.7%で収穫を終え、同時点における過去数年の平均収穫率84.3%とほぼ同様の進捗状況となった。前回の予測では、天候不順の影響により過去数年の平均収穫率を大幅に下回っていたが、その遅れをおおむね取り戻した。

24/25年度のとうもろこし需給をみると、生産量が上方修正されたことにより、輸出量も前回より400万t上方修正の4千万t(3.9%増)と、前年度をやや上回ると見込まれている。前回までの予測では、前年度割れが見込まれていたが、2カ月連続の上方修正により、前年度超えの見込みに転じた。

2024/25年度の大豆生産量は、前回より16万9100t上方修正の1億6965万7千t(14.8%増)と、前年度をかなり大きく上回り、CONABが統計を取り始めて以来最大と見込まれている(表)。これは、作付面積(3.2%増)と単収(11.3%増)がいずれも前年度を上回るとの見通しによるものである。収穫は6月で終了しているため、最終数値は微調整の上、次回の24/25年度最終調査結果で公表される予定である。

24/25年度の大豆需給をみると、生産量が上方修正されたことにより、輸出量も前回より3万7300t上方修正の1億625万3600t(7.5%増)と見込まれている。

表1 2024/25年度の主要穀物等の生産予測

	作付面積(千ha)				単収(トン/ha)				生産量(千トン)			
	2023/24	2024/25			2023/24	2024/25			2023/24	2024/25		
		(7月予測)	(8月予測)	前年度比増減率		(7月予測)	(8月予測)	前年度比増減率		(7月予測)	(8月予測)	前年度比増減率
穀物合計	79,939.2	81,808.6	81,922.0	2.5%	3.7	4.2	4.2	132%	297,497.8	339,649.0	345,237.9	16.0%
トウモロコシ	21,051.2	21,559.0	21,679.7	3.0%	5.5	6.1	6.3	152%	115,500.0	131,973.7	137,005.1	18.6%
第1期作	3,970.1	3,771.7	3,772.6	▲5.0%	5.8	6.6	6.6	143%	22,962.2	24,919.6	24,935.8	8.6%
第2期作	16,437.8	17,127.9	17,305.0	5.3%	5.5	6.1	6.3	156%	90,057.8	104,538.2	109,567.2	21.7%
第3期作	643.3	659.4	602.1	▲6.4%	3.9	3.8	4.2	7.8%	2,480.3	2,515.9	2,502.2	0.9%
大豆	46,149.6	47,614.9	47,637.2	3.2%	3.2	3.6	3.6	11.3%	147,721.3	169,487.9	169,657.0	14.8%

資料：ブラジル国家食糧供給公社(CONAB)

注1：2025年8月14日公表データ。

- 第1期作トウモロコシは、例年、9月ごろから南部より順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。
- 第2期作トウモロコシは、主に中西部と南部(ワナ州)で1~3月にかけて播種が行われ、6~9月に収穫される。
- 第3期作トウモロコシは、主に北部と北東部で5~6月にかけて播種が行われ、10~11月ごろに収穫される。
- 大豆は、10月ごろから順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

## 【輸入副生物現物相場】 盆明けで需要の端境期に。末端需要鈍く相場も弱含み

例年通り盆明けからの需要減退により、末端消費は鈍く相場も弱含み。連日、残暑ではなく「猛暑」が続いており、日中に外出することを極力避ける人も多く、昼間の量販店も閑散としている店舗が目立つ。需要の端境期のため、高単価商材の売れ行きは鈍いが、手頃な焼き材として重宝されていた味付きホルモンなどの動きも落ちており、例年以上に「さっぱりとした」涼味が求められているという声がきかれる。そのため、量販店では豚しゃぶやタンしゃぶといったアイテムを拡販しており、ハンギングテンダーなどを厚切りカットして、ポン酢や大根おろしで食す提案などをPOPで展開する企業も目立つ。

9月以降も需要は変わらず、盛り上がりには欠ける展開が予想されるが、現地価格はそれほど落ちておらず、米国産の供給量も引き続き潤沢とはいえない状況なので下値は限定的か。10月の行楽シーズンまでは焼き材、白物とも弱もちあいで推移しそう。

### 【輸入副生物現物相場】

商品名	原産地	規格	円/キロ、税抜き	
			価格	気配
<b>【フローズン】</b>				
牛タン	米国	グラス	2700~2900	↑
	豪州		2500~2800	→
	欧州		2300~2700	→
ハンギングテンダー (サガリ)	米国	チョイスプライム	2000~2100	→
	メキシコ		1800~	→
アウトサイドスカート(ハラミ)	米国	チョイスプライム	3100~3300	↑
	メキシコ		-	→
シンスカート、シックスカート	豪州	バルク	1200~	→
シンスカート(皮なし)	豪州		1500~	→
レバー	豪州		320~	
	米国		350~	→
トライブ	-	1.5UP	-	↓
	豪州	700gUP 500gUP	-	↓
スモール	米国		500	→
ラージ	米国		650~700	→
	豪州		680~720	→
アキレス	米国		1200	→
テール	豪州		1000~1400	→
メンブレン	豪州		600~	→
<b>【チルド】</b>				
牛タン	米国	グレイン	2800~3000	↑
	豪州		2500~2800	↑
牛タン(ムキタン)	米国		4500~4900	↑
	豪州		-	→
ハンギングテンダー (サガリ)	米国	チョイスプライム	1800~2100	→
			2400~2500	→
アウトサイドスカート(ハラミ)	米国	チョイスプライム	3300~3500	↑
	メキシコ		3500~	-
			-	→

## JAタウン「モーっとおおいた和牛・豊後牛を食べよう！キャンペーン」

JA全農が運営する産地直送通販サイト「JAタウン」のショップ「まるっと完食おおいた～美味しいもんいっぱい送っちゃけん～」は9月2日まで、「モーっとおおいた和牛・豊後牛を食べよう！キャンペーン」と題して、「おおいた和牛」と「おおいた豊後牛」の対象商品をお得な価格で販売している。

「おおいた豊後牛」は、大分の恵まれた自然の中で生まれ、輝かしい歴史と実績を持った大分県産和牛である。美しい霜降りの肉質で、風味も豊かでとろけるような軟らかさとおいしさが特長。「おおいた和牛」は、豊後牛の中でも特においしさにこだわり、農場で飼料用米またはビールかすを与えて育てられた、肉質4等級以上の高級ブランド牛。

お勧め品は「おおいた豊後牛 たっぷり1kg バラ切り落とし」特別価格税込み4千円(通常価格6300円)、「冷凍 おおいた和牛 ロース一口焼肉用400



g」2900円(5450円)、「おおいた豊後牛 小間切れ500g」1980円(2900円)など。

さらに、現在「和牛を食べようキャンペーン」も実施しており、対象の和牛商品が「お客の送料負担なし」となっている。

詳しい問い合わせは、JA全農フードマーケット事業部eコマース事業課=電話03(6271)8348。キャンペーンサイトは<https://www.ja-town.com/shop/c/c8401meat/>

[資料] 都道府県別枝肉生産量 (令和7年6月)

年次・ 都道府県	豚	牛計	成牛							
			計	和牛			乳牛		牛	
				小計	雌	去勢	雄	小計	雌	去勢
全国 (1)	97,997.1	39,772.9	39,725.4	21,133.5	9,585.9	11,540.0	7.6	7,752.1	3,854.4	3,895.3
北海道 (2)	9,087.2	7,468.5	7,446.4	798.2	295.3	502.9	-	4,646.8	1,906.6	2,738.2
青森 (3)	6,563.1	1,185.5	1,185.4	376.8	149.8	226.9	-	307.3	25.0	282.4
岩手 (4)	2,218.0	635.0	634.4	432.2	212.4	218.6	1.3	54.1	47.4	6.7
宮城 (5)	2,252.7	631.2	630.8	486.0	217.6	267.1	1.3	77.4	72.0	5.4
秋田 (6)	1,945.8	160.6	160.6	136.3	48.2	87.6	0.4	1.4	1.0	0.4
山形 (7)	2,261.9	573.6	573.6	479.4	383.5	95.5	0.4	5.4	5.4	-
福島 (8)	1,338.5	120.4	120.2	107.0	64.3	42.3	0.4	6.4	6.4	-
茨城 (9)	6,011.3	1,543.4	1,532.4	558.2	243.2	314.6	0.4	445.1	369.3	75.8
栃木 (10)	2,415.3	450.9	450.3	156.9	86.4	70.4	-	106.7	89.3	17.4
群馬 (11)	3,877.3	593.5	593.1	143.4	44.3	99.1	-	27.8	6.4	21.4
埼玉 (12)	3,283.0	1,177.5	1,176.9	360.6	170.7	189.9	-	295.3	269.4	25.9
千葉 (13)	4,867.9	778.7	773.0	88.6	65.1	23.5	-	190.7	145.6	45.1
東京 (14)	1,257.4	3,716.4	3,716.4	2,913.6	1,161.8	1,751.9	-	12.6	1.0	11.6
神奈川 (15)	3,270.9	754.3	754.3	414.6	200.2	214.4	-	46.2	37.8	8.5
新潟 (16)	2,614.3	91.5	90.6	52.7	18.2	34.4	-	8.1	7.7	0.4
富山 (17)	536.5	40.9	40.9	19.7	8.3	11.5	-	3.9	2.6	1.3
石川 (18)	191.2	173.0	172.6	72.7	27.4	45.4	-	32.0	20.8	11.2
福井 (19)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨 (20)	209.3	166.2	165.8	94.5	56.5	38.1	-	22.1	22.1	-
長野 (21)	716.1	177.1	177.0	75.1	31.3	43.8	-	20.3	19.8	0.4
岐阜 (22)	566.2	519.3	519.1	375.6	114.2	261.4	-	58.6	50.6	8.0
静岡 (23)	1,177.8	272.1	272.1	88.0	63.0	25.0	-	20.2	20.2	-
愛知 (24)	3,273.2	618.2	617.7	174.5	86.9	87.6	-	48.6	19.2	29.4
三重 (25)	910.1	300.0	299.9	249.7	239.3	10.4	-	33.5	31.7	1.8
滋賀 (26)	-	367.6	367.6	299.7	224.5	75.1	-	0.4	-	0.4
京都 (27)	130.5	503.1	503.1	395.3	241.9	153.4	-	3.8	3.8	-
大阪 (28)	134.6	927.3	927.3	478.5	211.9	266.6	-	97.6	12.8	84.8
兵庫 (29)	665.0	2,533.5	2,533.2	1,941.1	1,100.1	841.0	-	191.7	103.4	88.3
奈良 (30)	55.8	91.9	91.9	37.6	33.4	4.2	-	40.8	19.8	21.0
和歌山 (31)	-	8.7	8.7	4.3	4.3	-	-	-	-	-
鳥取 (32)	445.7	171.9	171.9	79.4	25.6	53.7	-	72.1	14.1	58.0
島根 (33)	494.7	142.5	142.5	92.6	42.6	50.1	-	19.2	17.0	2.2
岡山 (34)	420.2	240.1	240.0	71.8	36.9	34.4	0.4	105.4	69.8	35.7
広島 (35)	418.7	658.4	657.6	187.9	87.3	100.2	0.4	157.5	100.8	56.7
山口 (36)	-	66.5	66.5	10.3	8.7	1.6	-	19.4	14.1	5.4
徳島 (37)	1,392.2	266.1	266.1	121.7	46.0	75.6	-	12.3	11.8	0.4
香川 (38)	982.2	821.4	821.4	229.2	74.3	154.9	-	89.2	18.2	70.9
愛媛 (39)	1,065.8	93.7	93.7	47.3	16.5	30.8	-	21.0	3.2	17.8
高知 (40)	641.2	100.1	100.1	53.2	26.1	27.1	-	3.6	3.2	0.4
福岡 (41)	1,235.2	2,042.6	2,042.5	1,540.0	785.6	754.4	-	80.0	48.3	31.7
佐賀 (42)	459.3	220.8	220.6	214.7	81.6	133.0	-	2.9	2.9	-
長崎 (43)	3,614.7	694.5	694.3	452.6	174.6	277.5	0.4	102.5	41.0	61.6
熊本 (44)	972.7	1,321.1	1,320.9	949.8	349.2	598.9	1.7	126.7	116.2	10.3
大分 (45)	964.8	254.2	254.1	196.5	81.2	115.3	-	9.8	5.8	4.0
宮崎 (46)	5,927.7	2,161.8	2,160.9	1,526.9	638.4	888.5	-	73.6	19.2	54.4
鹿児島 (47)	15,344.0	3,775.2	3,774.6	3,397.8	1,239.5	2,158.3	-	45.8	45.8	-
沖縄 (48)	1,787.2	162.4	162.4	151.1	67.8	83.0	0.4	6.4	6.4	-

資料:農林水産省「畜産物流通統計」

(単位：頭)

乳牛	成牛								子牛	馬	枝肉生産量
	交雑牛				その他の牛						
雄	小計	雌	去勢	雄	小計	雌	去勢	雄			
2.3	10,811.2	4,718.9	6,091.3	1.0	28.6	9.3	12.8	6.5	47.5	341.3	138,111.2
2.0	1,988.4	718.8	1,269.6	-	13.1	4.2	8.9	-	22.1	0.9	16,556.6
-	501.2	249.5	251.7	-	-	-	-	-	0.1	31.3	7,779.8
-	148.2	47.4	100.8	-	-	-	-	-	0.6	-	2,853.0
-	67.5	36.1	31.4	-	-	-	-	-	0.3	-	2,883.9
-	22.9	10.3	12.7	-	-	-	-	-	-	6.9	2,113.4
-	88.8	29.3	59.5	-	-	-	-	-	-	9.1	2,844.6
-	6.8	6.8	-	-	-	-	-	-	0.2	76.4	1,535.3
-	529.1	191.4	337.6	-	-	-	-	-	11.0	0.9	7,555.5
-	186.8	42.5	144.3	-	-	-	-	-	0.6	-	2,866.2
-	421.8	237.3	184.5	-	-	-	-	-	0.4	0.4	4,471.3
-	521.0	219.7	301.3	-	-	-	-	-	0.6	-	4,460.5
-	493.8	256.4	237.4	-	-	-	-	-	5.7	-	5,646.7
-	790.2	332.5	457.7	-	-	-	-	-	-	-	4,973.9
-	292.9	177.3	115.7	-	0.6	-	0.6	-	-	-	4,025.3
-	29.8	12.7	17.1	-	-	-	-	-	0.9	-	2,705.8
-	17.3	11.2	6.1	-	-	-	-	-	-	-	577.4
-	67.9	50.3	17.6	-	-	-	-	-	0.3	-	364.2
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	49.1	46.4	2.8	-	-	-	-	-	0.4	20.0	395.5
-	81.6	46.9	34.7	-	-	-	-	-	0.1	0.4	893.6
-	84.9	16.6	68.3	-	-	-	-	-	0.2	3.0	1,088.5
-	163.9	74.7	89.2	-	-	-	-	-	-	-	1,449.9
-	394.6	205.1	189.5	-	-	-	-	-	0.4	-	3,891.3
-	16.7	11.7	5.0	-	-	-	-	-	0.1	-	1,210.1
-	67.5	19.5	47.9	-	-	-	-	-	-	-	367.6
-	104.0	78.6	25.3	-	-	-	-	-	-	-	633.6
-	350.6	126.5	224.2	-	0.6	-	0.6	-	-	-	1,061.9
-	400.5	274.9	125.6	-	-	-	-	-	0.2	-	3,198.4
-	13.4	6.8	6.6	-	-	-	-	-	-	0.4	148.1
-	4.4	4.4	-	-	-	-	-	-	-	-	8.7
-	19.9	8.3	11.6	-	0.6	-	0.6	-	-	-	617.5
-	30.6	10.3	20.4	-	-	-	-	-	-	-	637.2
-	62.8	34.7	28.1	-	-	-	-	-	0.1	-	660.3
-	312.3	168.0	144.3	-	-	-	-	-	0.8	-	1,077.1
-	36.4	33.7	2.8	-	0.3	0.3	-	-	-	-	66.5
-	132.1	9.3	122.8	-	-	-	-	-	-	2.2	1,660.4
-	503.0	218.3	284.8	-	-	-	-	-	-	-	1,803.6
-	25.4	8.3	17.1	-	-	-	-	-	-	-	1,159.5
-	43.3	5.9	37.5	-	-	-	-	-	-	2.2	743.5
-	421.6	118.7	302.9	-	0.9	0.3	0.6	-	0.1	46.0	3,323.8
-	3.0	2.4	0.6	-	-	-	-	-	0.2	-	680.1
-	139.3	89.4	49.6	0.3	-	-	-	-	0.1	0.4	4,309.6
0.3	237.4	73.7	163.0	0.7	7.0	2.6	0.6	3.9	0.1	139.8	2,433.6
-	47.8	30.8	17.1	-	-	-	-	-	0.1	-	1,219.0
-	558.0	257.8	300.2	-	2.4	1.3	1.1	-	0.9	-	8,089.5
-	331.1	107.4	223.6	-	-	-	-	-	0.7	-	19,119.3
-	1.6	0.5	1.1	-	3.2	0.6	-	2.6	-	0.9	1,950.4

# 東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 8月26日  
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A 78頭	高値	3,744	2,306	1,958	-	-
		安値	1,999	1,872	1,891	-	-
		平均	2,396	2,020	1,937	-	-
		頭数	45	29	4	-	-
	雌 B -頭	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
		頭数	-	-	-	-	-
	去 A 158頭	高値	3,134	2,241	2,001	-	-
		安値	1,945	1,944	1,839	-	-
		平均	2,322	2,028	1,929	-	-
		頭数	99	47	12	-	-
去 B 2頭	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	2,138	1,891	-	-	-	
	頭数	1	1	-	-	-	
乳牛	雌 B 2頭	平均	-	-	-	983	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B 1頭	平均	-	-	-	1,047	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B 13頭	平均	-	1,736	1,432	1,431	
	雌 C 1頭	平均	-	-	-	919	
	去 B 38頭	平均	-	1,662	1,513	1,377	
	去 C 6頭	平均	-	-	1,315	1,258	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	329 383	832 787	- 91.5	(競り)	(相対)	- 52

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,568	1,607	1,608	1,356	-
	B	-	-	-	1,283	1,112
和 去	A	2,345	2,058	-	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	1,045	1,021
	C	-	-	-	1,035	1,002
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	1,582	1,307	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 去	B	-	1,636	-	1,136	-
	C	-	-	-	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	713	808	723	626	563
	安値	649	583	561	369	206
	平均	684	633	601	566	537
	頭数	( 5)	( 307)	( 288)	( 92)	( 95)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
搬入 相対	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)

[大阪食肉卸売市場] 8月26日  
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [ ] は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,455	2,094	1,955	-	-
(頭数)	( 4)	( 3)	( 1)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( 1)	( -)
和 去 A	2,370	2,029	1,944	-	-
(頭数)	( 23)	( 10)	( 1)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
乳 去 B	-	-	-	1,217	-
交雑雌 B	-	-	1,563	1,494	-
C	-	-	-	-	-
交雑去 B	-	1,722	1,580	1,452	-
C	-	-	1,603	-	-
豚	-	-	-	-	-

[全国と畜概算頭数]  
農水省統計部発表 (頭)

	8月26日	8月25日	( 8月累計)
豚	66,000	63,400	898,400
成牛計	4,480	4,940	61,540
和牛雌	1,060	1,010	14,270
和牛去勢	1,340	1,540	15,450
乳牛雌	900	360	10,050
乳牛去勢	270	510	6,820
交雑雌	490	610	6,480
交雑去	420	880	8,410

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 8月26日

	1,388円	(前日 1,481円)
東京		
大阪	1,488円	(前日 1,562円)

[豚・全農建値] 8月26日

上	中	取引頭数	市況
638円	605円	893頭	強もちあい

と畜 売買	牛 47頭	豚 94頭	牛概況	もちあい
	牛 79頭	豚 24頭	豚概況	まぢまぢ

# 各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 8月26日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	734 (756)	- (-)	6,130	-	下押し
仙台 [中]	640 (684)	597 (630)	457	30	反落
栃木 [地]	- (635)	- (555)	1,496	9	-
茨城 [地]	628 (609)	585 (596)	1,371	563	反発
群馬 [地]	678 (645)	548 (543)	1,866	219	反発
さいたま [中]	649 (639)	615 (620)	131	141	反発
東京 [中]	633 (620)	601 (590)	832	787	上伸
横浜 [中]	633 (641)	599 (605)	657	647	下押し
山梨 [地]	738 (-)	720 (-)	101	53	品薄高
浜松 [地]	- (-)	- (-)	-	-	競り休止
名古屋 [中]	746 (744)	712 (708)	940	195	強もちあい
京都 [中]	761 (724)	731 (717)	92	95	もちあい
大阪 [中]	- (969)	- (878)	94	-	上場なし
神戸 [中]	820 (-)	879 (-)	-	137	-
岡山 [地]	681 (685)	662 (674)	249	230	もちあい
広島 [中]	760 (696)	692 (-)	256	98	急騰
福岡 [中]	681 (690)	644 (657)	548	132	続落

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 8月19日～8月25日  
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,479,996 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,381	1,486	1,596	1,474	63,645
うで	832	896	931	893	118,694
ロース	1,199	1,409	1,501	1,371	131,362
ばら	1,334	1,447	1,558	1,435	140,213
もも	807	835	864	833	158,856
ヒレ	1,248	1,598	1,620	1,497	11,414
セット	1,081	1,131	1,186	1,133	855,812

◇近畿圏 総重量 651,765 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,415	1,496	1,596	1,513	49,746
うで	834	893	916	882	105,404
ロース	1,270	1,418	1,467	1,399	84,038
ばら	1,382	1,436	1,490	1,435	118,446
もも	821	848	933	856	146,271
ヒレ	1,268	1,362	1,513	1,381	8,795
セット	1,034	1,178	1,234	1,153	139,065

[食鳥正肉日経相場] 8月25日  
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (8社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	678	775	981	168
ムネ	514	570	710	140

◇大阪 (2社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	697	795	1,030	3
ムネ	528	560	663	2

[農水省統計情報部食鳥市況] 8月25日  
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	1,051	787	550	600	650
安値	610	480	290	360	350
平均	789	582	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

# 食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

## ■業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

## ■畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

### ◆食肉販売&経営関連

## 銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 258頁 定価2,500円(送料別)

## 銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

### ◆イベント

## ■国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



## 食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP)  
<https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

お申し込みは電話かFAXで  
お近くの食肉通信社まで

# 株式会社 食肉通信社

■大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

■東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928

■九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

※東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願致します。

## 週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

## 日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

## 月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

### ◆教材&レポート等

## ■あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男  
鏡見 著

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

## ■~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ 牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

## ■職人の技を次世代へ繋ぐ、保存版 牛枝肉・部分肉の 分割と商品化

カラー写真も豊富で、各種規格、枝肉の分割から商品化までの全てが分かる一冊。

B5判 216頁 定価5,500円(送料別)

## ■知識を豊かにする 食肉用語事典

平成22年に新改訂した、定評のエンサイクロペディア。新訂正版は3,000語採録。

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

### ◆ステーショナリー

## 食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します